

第17代会頭

塚本 能交



第17代会頭に選任された塚本会頭にインタビュー。
新型コロナウイルス感染症の拡大により、
経済が急減速する厳しい状況の中、
商工会議所の役割や今後の事業運営について伺いました。

※本インタビューは2020年4月27日に行いました。

故立石名誉会頭の数々の功績
を引き継ぎ、明日の京都を

前会頭の故立石名誉会頭から強いご意向を受けて、会頭職を引き継ぐことを決意しました。身の引き締まる思いであり、故立石名誉会頭の数々の功績を引き継いで、京都経済の代表として重責を担っていく覚悟です。

会議所運営における私の基本的な方針としては、「会員目線」、「会員との信頼関係」を大切にしていきたいと考えています。国内外の人々を魅了する、活力溢れる京都の実現に向けて、京都商工会議所のビジョンをもとに、会員の皆様とともに中小企業振興をはじめとする産業振興やまちづくり、人づくりに取り組んでいきたいですね。

新型コロナウイルスショックを
乗り越えるため
全力でサポートしたい

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界経済は急速に悪化しています。4月16日には全国に緊急事態宣言が発令され、京都においても多くの企業・店舗が休業に追い込まれ

るなど、京都経済はかつて経験したことがない危機に見舞われています。会員の皆様には、従業員やそのご家族の感染リスク、先行きに対する不安など心配が尽きないのではないのでしょうか。

普通の経済活動が全くできなくなるような事態は、以前は想像もできなかったことです。それぞれの企業努力だけでは解決できない問題がたくさんあり、非常に苦しい思いをしておられる企業も多いでしょう。商工会議所としては、今回の新型コロナウイルスショックを克服するため、政策を総動員して対応するように国や京都府、京都市に働きかけることはもちろんですが、会員企業の声に耳を傾けて、しっかりとサポートする事業を展開し、地域総合経済団体としての役割を果たしていきたいと考えています。

これからは、一日でも早く新規感染者を0にできるように取り組んでいくことが重要です。今は経営を維持できるぎりぎりのところまで活動をおさえていただき、そこで何とか耐えられるよう、商工会議所の総力をあげてしっかりと支援して参ります。また、通常の経済活動ができない時だからこそ、この事態が収束

したときに回復・成長基調に乗れるような準備をして力を蓄えてほしいと考えています。そしてその時が来たら、元気な京都を取り戻し、多くの人々を魅了する京都力を取り戻せるよう、京商はしっかりと支援を行っていきます。それぞれが培ってきた知恵を活かして、この苦境を乗り越えていきましょう。

世界水準の 京都ブランドをつくる

新型コロナウイルス感染症の拡大で、企業を取り巻く経営環境はもちろん、人の価値観やライフスタイルまでが大きく変わろうとしています。会頭就任にあわせて2020年度の事業計画を策定しましたが、昨年11月に発表した「京商ビジョンFUTURE」を指針としながら、時代や企業ニーズの変化を踏まえ、た各種の施策を臨機応変に推進していくつもりです。

まずは会員企業の事業継続と安定を最優先に考え、資金繰り対応や雇用維持など、企業を下支えする取り組みに注力していきます。また感染症の終息が見通せる段階ではあ

りませんが、京都経済の成長をけん引する知恵産業、知恵ビジネスへの支援を中心に、ピンチを好機ととらえる企業を積極的に支援し、地域経済のV字回復を担う企業を育成したいと考えています。京都には、まちや企業、産業が継承・発展させてきた知恵がまだまだ眠っています。知恵の本質をさらに追及し、獨創性にあふれる企業や人材などが活躍する、その蓄積が、世界で輝く京都ブランドの確立につながっていくと思います。

2020年度の事業計画では、そのような思いを込めて「知恵産業で花開く 個性豊かな世界水準の京都ブランド『VIVID KYOTO』を目指して」をテーマに掲げ、いきいきと輝き、世界の人々が憧れ、国内外から愛されるブランド作りに取り組んでいくこととしています。顧客やマーケットの視点で新たな価値を創造する知恵ビジネスの取り組みに磨きをかけ、知恵産業のまちをさらなる成長ステージへと引き上げていきます。新たな海外販路開拓支援や京都ブランド発信事業など、世界のマーケットを見据えて京都ブランドの創造と発信に取り組んでいきます。

京都のブランド力を活用して 新しいチャレンジを

私は29歳の時に「10年後に社長を譲る」と父に言われました。その時10年後を見据えて何をすべきかを考えましたが、自分の能力を超えるような大きな目標を目指すより、日々の前にある自分の仕事に全力を傾けて取り組むことが重要ではないかと感じました。まずは自分ができることをしっかりとやっていくことが、結果的には将来の自分の成長につながると考えています。

京都という他に見えないブランド力を持つまちだからこそ、若者や学生などがどんどん新しいビジネス

にチャレンジしていったほうがいいと考えています。どんなビジネスをするにしても、国内・海外を問わず、「京都発」というだけで非常に大きなアドバンテージがあります。京都の深い歴史と培ってきた文化の力を背景に、「さすが京都！」と言われるようなブランド力が、京都のまちには備わっています。この京都ブランドを下地として、それぞれが持つ知恵をミックスさせることで、世界に通用する企業を輩出する力が、まだまだ京都には眠っていると考えています。知恵を活かしたビジネスを展開する若い産業人材の活躍に大きな期待を持っています。

